

輯 編 局 報 情

週 報

號 日 六 十 月 九

昭和十一年十月十一日第三種郵便物認可
昭和十七年九月十六日發

(每週一、四、水曜日發行)

航 空 日 特 輯

若 鷺 と なる には

— 航空要員の養成 —

航 空 醫 學 について
成 層 圏 飛 行 の 話

思 想 戰 讀 本

1

五 錢

情 報 局 編 輯

週 報

九 月 十 六 日 號

昭和十一年十月一日 第三種郵便物認可
昭和十七年九月十六日發

(每週一、四、水曜日發行)

航 空 日 特 輯

若 驚 と なる には

— 航空要員の養成 —

航 空 醫 學 について

成 層 圏 飛 行 の 話

思 想 戰 讀 本

1

五 錢

國民合唱

胸を張つて

大政翼賛會標語
弘田龍太郎作曲

♩ = 116

mf
アヲノヲ アフイデ オホキナ コキフ

ミンナソロッテ コノムネハツテ イーツモ

mf
イーツモ アサノキモチデ アルカウヨ

胸を張つて

大政翼賛會標語

青空仰いで

大きな呼吸

みんな揃つて

この胸張つて

何時も何時も

朝の氣持で歩かうよ

(來週と再來週、火木土曜日
午後七時宇より放送)

週報

第三一〇號
九月十六日

航空日特輯

大東亞戰下に迎へる航空日……………二

航空醫學について

陸軍航空本部……………四

成層圏飛行の話……………航空局……………九

若鷺となるには…………………………一八

思想戰讀本 (一)

大東亞戰爭と思想戰…………………………三

週間日誌

九月三日(木)

▽陸軍航空部隊、零陵(湖南省)、桂林(廣西省)で米戦闘機七機を撃碎

九月四日(金)

▽行政簡素化勅令案を閣議で決定

九月五日(土)

▽滿洲國、新國歌を制定

▽近く訪日飛行を實施の旨、滿洲國軍發表

九月六日(日)

▽獨逸軍、ノヴォロシスクを攻略

九月七日(月)

▽香港攻略戰に俥働の田中部隊増島將校斥候、西山部隊および岩井工兵小隊に對

し感狀が授與され、上聞に達した旨、陸軍省發表

▽イタリア國、ブラジル國に宣戰布告

▽米大統領ルーズヴェルト、檣邊談話を放送

九月八日(火) 第九回大詔奉讀日

▽國民鍊成の新方針を大政翼賛會決定

九月九日(水)

▽香港攻略戰に俥働の岸工兵中隊、鈴川工兵部隊、同配屬部隊、同協力部隊および高月飛行中隊に感狀が授與され、上聞に達した旨、陸軍省發表

▽特設海軍部隊臨時職員設置制を改正公布

大東亞戰下に迎へる航空日

大東亞戰爭勃發して十ヶ月、相次ぐ痛撃にはさすがの米英も少からず參つてゐるには違ひないが、さればといつて、われ／＼が徒らに陸海軍の大戦果に酔ひ、大東亞戰爭の前途に、手放しの樂觀をしてゐたならば、それこそたいへんな誤算を招くであらう。

立上りに機先を制された米英聯合軍も、日時の経過と共に漸く本格的な抗戰態勢に入らうとし、今や相撲は四つに組まれようとしてゐるのである。物博地大を誇る米英と四つに組まんか、われらもいよ／＼身構へを整へて渾身の力を揮ひ、あくまで敵を打倒せねばならないのである。特に事航空に關しては、敵が對日攻撃にその航空力を高く評價してゐるだけに、一刻の油斷も許されないのである。彼等はその強大な航空工業力と、豊かな技術の遺産をもつて、緒戦の不名譽を雪ぐべく、われに一撃を加へんとその機を虎視たん／＼と狙つてゐるのである。

敵アメリカは、わが精強海軍によつて戰前保有してゐた主力艦、並びに航空母艦に大なる打撃を受けたとはいへ、今や新航空母艦の建造を急ぎ、また商船を航空母艦に改装轉用し、同時に日本爆撃を企圖しつゝ、大型航空機の生産擴充に汲々としてゐるのである。米大統領ルーズヴェルトは「米航空機の生産力は間もなく月産一万機に達するであらう」といつてゐるが、われ／＼はこれを單なる彼の豪語として看過することはできないのである。既にアメリカは戰前より航空機製作工場の新増設をはかり、また尤大な自動車工業をあげて航空機工業に振向け、特にフォード、バッカード、ゼネラルモーターズ、

ビエック等の著名な自動車工場は、晝夜を分たず大型航空發動機の製作につとめてゐるが、さらに最近では航空機の規格を單純化し、多種多様に亘つた從來の機種を整理して、効用度の大きな飛行機を集中的に製作し、それによつて多量生産の能率化をはかつてゐるのである。

更にまた、われ／＼が考へねばならないのは航空技術の問題である。今日、わが航空技術は世界の水準を抜いてゐるが、これまでわが航空技術陣營が他國の影響を受けてゐたことは否定し得ない事實である。しかるに今やわが航空技術陣は、正に獨自の道を開拓せねばならなくなつたのである。

しからば、かうした敵側の航空工業力の増大と、わが航空技術陣の一層の伸張を期すために、われらは如何なる手段をとるべきか。まづわれ／＼は、一片の金屑をも回収献納するといふ愛國の至情に燃えつゝ、大東亞圈内のあらゆる資源を動員し、敵に劣らぬ航空工業力を培養し、そしてまた、從來の營利主義、技術の秘匿を投げうつて、わが國獨自の優秀な航空技術を確立し、同時にまた軍官民協力して、優れた航空要員を多量に養成しなければならぬのである。

殊に航空要員の養成については、敵の誇る物的な數に對して、人的な質をもつて對抗するといふ意味からも、特別な關心が拂はねばならないのである。

あたかも、この九月二十日は第三回目の航空日である。第一次ソロモン海戦につぐ第二次ソロモン海戦といひ、アリューシャン方面に對する敵の反撃といひ、また支那大陸における米機の蠢動といひ、勿論、皇軍の勇戦奮闘によつて撃退されたとはいふものの、これら一聯の敵反攻の態勢を眺めつゝ、いま翼日本建設への道標ともいふべき航空日を迎へんとするわれ／＼は、齊しく空への關心を昂め、敵側の航空機によるあらゆる反撃にも十分な用意を整へ、數多き空への課題を解決しつゝ、進んで敵航空陣を撃滅すべく、覺悟を新たにせねばならないのである。